

# 日本災害看護学会 令和6年能登半島地震活動報告

2024年2月11日(日)

活動隊員：朝田和枝、野原正美

## 1. 活動日時

2024年2月11日(日) 0時～24時

## 2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

避難所使用者数 35人(一時避難者あり) 22世帯

## 3. 石川県の被害状況(2月8日14:00時点 内閣府情報)

人的被害 死者:241人 負傷者:1,182人

住家被害 全壊・半壊・一部損壊:18,478棟

## 4. 天候(2月11日時点 NHKニュース)

曇り(時々雪) 最高気温8℃ 最低気温1℃

## 5. 活動の実際

6:00 救護班エリアにて記録物確認、ホットタオル準備

6:30 起床者にホットタオル配布 検温 健康状態の聞き取り

7:00 起床時間 ↓

7:30 朝食(配膳・下膳)

8:00 珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting

9:00 ラジオ体操 換気

体育館内の清掃

11:00 A地区集会所およびA地区の在宅避難者を巡回訪問

テレビ局の取材対応

12:00 昼食(配膳、下膳)

広島県保健師チームの巡回 在宅避難者の訪問状況に関する情報共有

12:36 震度4の地震発生 校舎内の避難者の安全確認→負傷者なし

13:00 B地区集会所を巡回訪問 5人ほどの住民が滞在しており、血圧測定などを実施する

A地区の在宅避難者へ物資を届ける

14:40 大谷小中学校へ戻る

16:00 体操

館内の清掃、換気

17:00 珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting

18:00 夕食(配膳、下膳)

18:40 大谷小中学校本部関係者 meeting、換気

19:00 健康状態の聞き取り

21:00 消灯、適宜対応

## 6. 支援活動と課題

## 【被災者への生活支援と健康支援】

- 3連休の中日でもあり、多くの避難者が自宅の片付けなどに戻っていた。残っている住民に対しては血圧測定など健康観察を実施したところ、拡張期血圧が100前後の住民が散見された。希望者には血圧手帳を配布し、経過観察していけるよう関わった。
- 本日もA地区集会所の巡回を実施した。エコノミークラス症候群が疑われる住民は、昨日紹介された予防検診に行ったとのことで不在であった。その他に糖尿病の既往がある住民が浮腫や末梢のしびれを訴えていた。緊急を要する状態ではないものの、見守りの必要性がある。
- 在宅避難をされているA地区の住民宅(80歳代の独居男性)を訪問した。昨日届けた物資はすでに食べられており「助かったよ」と話されていた。やはり炊飯はできるものの副食の調理が難しく、ご本人とも相談の上、温めて食べられる物資をお届けした。
- 新たにB地区集会所の巡回を実施した。日中は3~4人程度と少ないものの高齢者が多い状況であった。災害発生後も受診行動や内服は継続できているが、山あいの地域で医療機関までの距離も遠いため、定期的な巡回と医療ニーズの把握を行っていく必要があると思われる。また、震度4の地震が発生して間もない時間の訪問であったこともあり、余震が続くことへの不安も口にされていた。ほとんどが高齢者であることから「火の始末も素早くはできない」など環境面での心配もある様子だった。

## 【課題】

- エコノミークラス症候群を疑われる住民へ情報提供したことが受診に繋がっており、巡回訪問に一定の効果があったことが窺われた。本日の巡回中には、検診の情報を知らない住民もおり、スクリーニングや情報提供のために、他機関とも調整しながら訪問を継続していく必要があると思われる。
- 集会所への訪問時、住民からは道路の状況が回復しないと受診を継続するのが難しいといった声や、市外から派遣されていた主治医がかかりつけ病院まで来ることができず、このまま見てもらえないのではないかと声も聞かれていた。当面の内服薬の確保はできている状態であったが、受診の状況なども確認しながら、該当機関への情報提供やサポートなども検討していく。
- 避難所の中には結膜炎が疑われる住民もおり「家の片づけしてたら目が赤くなってきた」との声も聞かれた。ボランティアも徐々に入り始め、今後は倒壊家屋の片付け作業なども進んでいくと思われる。避難所へ戻ってきた際の手洗いの励行なども行っていく必要がある。

## 【活動の様子】



写真1 巡回訪問時の様子



写真2 食事準備の様子



写真3 周辺の道路状況